

GRADUATE'S VOICE

法学部へ進学した理由は振り返れば

「正義感」という言葉に突き当たります

Q.現在の仕事を志望した理由は何ですか

A.在学中のインターンシップの一環で、スイスの国連欧洲本部に通いました。世界平和の最前線と思っていた現場で感じたのは、一人一人の意識が変わらなければ世界は変わらない、という諦観に似た思いでした。帰国後、世論や価値観を動かすメディアの力を信じてみようと考え、新聞社での仕事を選択しました。国内外でIT企業や金融機関、官庁を取材し、デジタル化による世の中の変化を記事にする機会に恵まれました。



日本経済新聞社 勤務 平本 信敬 | 2008年 卒業 県立高志高等学校(福井県)出身

Q.法学部での学びは活かされていますか

A.「国際関係は人間関係だ」。ゼミの教授が教えてくれたこの言葉が常に心にあります。どんなに大きな物事も、一つ一つ解きほぐしていくと最後は人と人の関係に行き当たると。国際関係に限りません。ビジネスも、家族も同じです。取材するときもビジネスを考える時も、人と人がどう関わっているか、そしてどう関わっていくかを意識することで手掛けりが見えています。

社会の重要な側面を学んだことは法曹としてバランス感覚の支えになっています

Q.現在の仕事を志望した理由は何ですか

A.法曹三者にはそれぞれに魅力を感じましたが、ビジネスの現場や困っている人に最も近い存在として直接貢献できること、また自分自身で人生を自由にデザインしやすいことから弁護士を志望しました。法学部での学びは、現職に大変役立っていますが、犯罪学の授業では実際に刑務所を見学するなど、社会の重要な一面についても学ぶことができました。このことは法曹としてのバランス感覚の支えになっています。



TMI総合法律事務所 勤務 平 龍大 | 2013年 卒業 道立北海道岩見沢東高等学校(北海道)出身

法解釈や法令用語は特殊な世界。法学部で得た知識は日々の支えになっています

Q.現在の仕事を志望した理由は何ですか

A.内閣府の防災担当で、所管法律である灾害対策基本法の解釈や防災担当が立案する法令等の審査といった、法令関係業務を行っています。私が現職を志望した理由は、社会に大きなインパクトを与えるところにシンプルな魅力を感じたからです。在学中に受けている法律・行政系の講義を通じて、日本が直面している課題が多様かつ困難に満ちたものであることを知り、その解決に携わりたいと考えていた自分にとってはベストな選択だつたと思います。



内閣府 勤務 小林 鉄 | 2018年 卒業 都立井草高等学校(東京都)出身

Q.大学時代の印象的な思い出は何ですか

A.ゼミです。普段の活動はもちろん大切ですが、教授やメンバーと他愛のない話をしたりお酒を飲み交わしたり、そういった何気ないひとときも良い思い出になっています。授業やアルバイト、部活、サークル等で忙しくなると思いますが、ゼミは大学時代にしか経験できない貴重な機会ですので、積極的に参加することをおすすめします。

現役の法曹から話を伺うことができる授業を通して将来像をイメージしました

Q.現在の仕事を志望した理由は何ですか

A.テレビのニュースで見たある殺人事件の裁判結果に関心を抱いたことがきっかけで、中学校3年生の頃から刑事事件に法曹として携わりたいと思いはじめ、中央大学の法学部へ進学しました。その後、検事と話をする機会があり、その時に仕事に対するやりがいや熱意を聞き、検事という職業に興味を持つようになりました。法学部で学んだことは、実際に検察官となった現在もそのまま活かされています。



検察庁 勤務 本郷 優理 | 2017年 卒業 私立浦和明の星女子高等学校(埼玉県)出身

答えは現場にある——何気ない会話の中から課題解決のヒントを探ります

Q.現在の仕事を志望した理由は何ですか

A.大学進学を機に地元を離れ、外から岩手県を見たことで地域資源の豊富さや魅力を再認識し、それらを後世や国内外に伝えていくとともに、地域振興に携わっていきたいという思いが強くなりました。また、在学中にさまざまな地域課題・社会問題に触れ、実際に取り組んでみたい分野が多くあったため、部局を越えて幅広い業務に携わることができる県職員を志望しました。



岩手県 勤務 吉田 沙織 | 2018年 卒業 県立盛岡第一高等学校(岩手県)出身

Q.仕事をするうえで心がけていることは

A.東日本大震災から11年、復興に向けた道のりはまだ半ばですが、自分が携わった事業により事業者が目標に向かって一歩前へ踏み出しができたり、経営力の向上に取り組んだりしている様子を見聞きすると大きなやりがいを感じます。何気ない話の中に課題解決のヒントが隠れていることから、「答えは現場にある」という意識を常に持ち、地域の人々と積極的にコミュニケーションを図るよう心がけています。

多くの時間を過ごした炎の塔の研究室。大学時代の出会いは私の一生の財産です

Q.現在の仕事を志望した理由は何ですか

A.卒業後は社会貢献できる仕事に就きたいと考えた中で、民間企業では必ずしも実施されていない業務を使命とする独立行政法人の取り組みに魅力を感じました。また、実家が薬屋を営んでいたことから、労災病院を運営している当機構であれば、幼い頃から馴染みのある医療にも携われると思い、入構を希望しました。現在は本部において、アスペスト疾患の診断方法に関する研修の運営事務を担当しています。



独立行政法人 労働者健康安全機構 勤務 河村 圭子 | 2012年 卒業 私立遺愛女子高等学校(北海道)出身

Q.受験生へメッセージをお願いします。

A.大学時代は自由を謳歌できる貴重な時期、私は多くの時間を炎の塔の研究室で過ごしました。中央大学にはやる気を後押ししてくれる環境が整っているので、そのサポートを充分に活用して充実した学生生活を送ってください。受験生活で先が見えずに暗闇を感じる時にも、自分の足元を確かめ、着実に一歩ずつ進んでいけば、きっと進むべき道に辿り着けるはず。応援しています!

※2023年3月時点の内容です。